

赤ちゃん向けの「木育」スペースが誕生。 さまざまな魅力満載で子どもにも親にも大好評。

東京に「木育」をテーマにした赤ちゃん向けの育児スペースが誕生し、連日子どもたちで賑わっている。杉の木でできた玩具が子どもたちに与える効果は大きく、親たちにとってもかっこうの交流の場になっている。環境保護や職人技の継承も視野に入れた「木育」は今後、広まる可能性もある。

杉の木はあたたかく、 安全な玩具に最適な素材。

平日の昼間、部屋に入りきれないほどたくさんの子どものたちが、さまざまな種類の木の玩具で遊んでいる。ここは東京四谷にある東京おもちゃ美術館。廃校となった小学校を利用した施設だ。おもちゃのもり、おもちゃの展示室など9室もある部屋で自由に遊べるのだが、小さな子どもにいちばん人気なのはAJOSCの助成も受けて2011年にオープンした「赤ちゃん木育ひろば」だ。

「木育」という言葉は、木に親しんで自然に学び豊かな心を育むという教育面の意義と、森林の整備に貢献し、

地球温暖化の防止や大気・水・土壌などの環境の維持に貢献するという環境面の意義をあわせ持っている。この広場の床や壁、展示しているおもちゃも全て日本各地の杉の木が素材だ。同美術館を運営している認定NPO法人日本グッド・トイ委員会の山田心さんにお話を伺った。

「今、日本のおもちゃのほとんどはプラスチック製で、しかも中国などで作られています。日本の子どもには、やはり日本の素材とおもちゃに親しんでもらいたいということで、杉を使っています」

ここでは秋田杉、多摩杉、飛騨杉、京都北山杉、奈良吉野杉、宮崎飴肥杉など日本各地の杉が使用されている。簡単に成形できるプラスチックとは異なり、木の玩具の場合は大量生産ができない。そのためコストが高くなってしまいが、職人たちがさまざまに工夫をこらした手づくりの木の玩具には、他にはないあたたかさや、心地よい肌触り、独特の香りなどがある。素材はやわらかく、どれも角をとっているので危険性も少ない。またここには授乳スペースやおむつ替えスペースも用意されている。親たちも



AJOSCの助成も受けて2011年にオープンした「赤ちゃん木育ひろば」



子どもたちはおもちゃに夢中になり遊んでいる

そうした点を評価していた。あまりにも居心地がいいので、この部屋の滞在率は高く、一日中遊んでいる子もいるそうだ。

遊ぶのに夢中になる。 「赤ちゃん木育ひろば」。

玩具を見てみよう。大きなものでは滑り台やトンネルがある。子どもたちは張り付くようにして遊んでいる。小さなものでは積み木や動物などのおもちゃがある。積み木といっても、積み上げて遊んでいるとは限らず、転がしたり、撫でたり思い思いの楽しみ方をしている。

「普通これだけ子どもがいると、1人くらいは泣いているものですが、ここでは泣き声が聞こえないでしょう。それだけ遊ぶのに夢中なんです」と山田さん。


子どもたちが夢中になるのには理由がある。木のおもちゃがきわめてシンプルなつくりで、遊び方に創意工夫する余地が多いのだ。どう遊んでもいい。毎回別の遊び方もできる。日本の職人たちの匠の技に触れることもできる。遊びに「型」がないから、子どもを刺激し、想像力、創造力、演技力を引き出す効果があるのだ。

さて、このプロジェクトでは3つの「K」をテーマに掲げている。最初のKはこれまで述べたように「国産材」。次のKは「交流」である。この施設は、親子が数多く集まるため、交流が盛んになる。また親同士だけではなく、異世



ひろばでは親同士の交流も活発になる

担当者より



『木育』はデメリットのない育児手法です。

認定NPO法人
日本グッド・トイ委員会
山田心さん

この施設には多くの団体と個人の善意が込められています。AJOSCが入っていることも意義深いことだと思います。「木育」にはデメリットはなく、子どもにも親にも環境にも良い育児手法。ぜひ、全国の遊技業関連の方にも知っていただき、広めていただければと考えております。

代とも交流が図れるようになっている。その担い手は先輩パパママボランティアである。施設には、20歳から84歳まで200名ものボランティアがいる。玩具の遊び方を教えたり、いっしょに遊んだりするだけではなく、来場する親たちの相談相手になってくれるのである。

「ボランティアたちは自分も子育てで苦労しましたから、現役の人たちの力になってあげたいという気持ちがあるのです。またボランティアにとってもここでの活動は生きがいになっていると思います」

そして3番目のKが「協働」である。教育や環境の研究者、デザイン業者、職人、新宿区、林野庁などさまざまな立場の人たちが参画する産官学民のプロジェクトになっている。

「赤ちゃん木育ひろば」のオープン後、各地の自治体から施設の見学が後を絶たない。近い将来、日本全国にこうした施設が誕生し「木育」が広まる可能性も大きい。



親たちの相談相手にもなってくれるボランティア